

講演

道路改良會の使命

道路改良會會長 水野鍊太郎

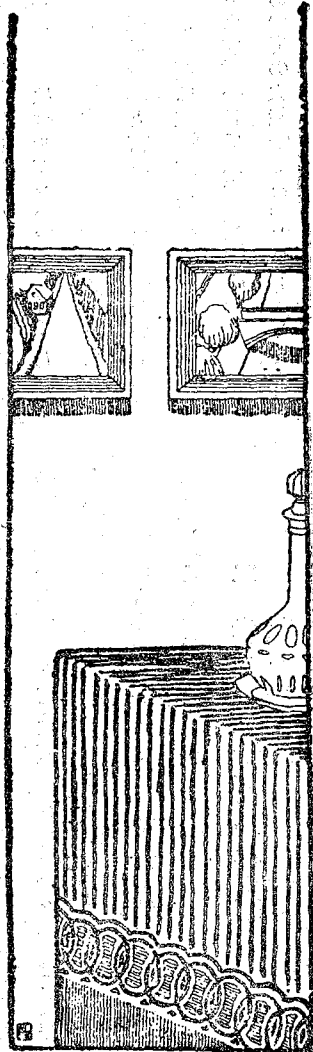
一 歐洲大戰にも道路で勝つ

聯合軍勝因の一つ

この度北海道に於きまして道路改良會の支部を設ける事となり、其の發會式を札幌に於て舉ぐる事になりましたので、我々道路改良會に關係ある者が特に當地に出張いたしました。式に列し、同時に北海道に於ける道路の視察を致

したいと言ふ趣旨で参つたのであります。本日は當地の皆様方がお集りになつて居られるので、道路に關する所見を述べまして、御参考に供したいと思ふのであります。且此機會に於きまして、道路改良會なるものが組織せられました動機と、其の使命に就き、お話ししたいと思います。

御承知の通り、我國に於ける道路が極めて不完全である



と言ふ事は、都市と農村とを問はず等しく痛感する處であります。時恰も歐羅巴に於きまして大戦争が起つた。一千九百十四年、即ち大正三年より五箇年に亘る大戦争が起

りまして、歐羅巴の總ての國々は此戦争に参加することになりました。此戦争の當初に於ては皆様も御承知の通り獨逸の勢力は實に偉大なものであつて、東西に敵を受けておるに拘らず、獨逸は白耳義に侵入し、佛蘭西を攻め、一舉にして巴里を陥れんとし、延いては英國に迄も脅威を及ぼす様な状態でありました。此勢を以て進みましたならば遂に獨逸の勝利に歸するのではないかと言ふ懸念を持つ人も多かつたのであります。而して此戦争の最も激戦であつた即ち關ヶ原とも言ふ可き戦はベルダンの戦でありました。ベルダンの要塞が陥り獨逸の大兵が佛蘭西に入つたならば恐らく獨逸の力は全歐に及ぶと言ふことになつたのであります。故に此の一戦こそ實に歐洲大戦の運命を決する大戦争であつたのであります。一日に二十五萬發の砲彈を費したと言ふ世界歴史あつたの大戦争であつたのであります。

然るに此の大戦に於て佛蘭西が能く是を防ぎ遂に獨逸を破り、彼をして佛蘭西に侵入せしめないことを得たのであります。

此の戦争に於てベルダンが陥らなかつた爲獨逸は蹉跌を來たし日に日に衰運を呈して來ました。さうして遂には御承知の如く聯合國が勝利を得まして、獨逸をして今日の状況に致らしめたのであります。此のベルダンの戦争に於て佛蘭西が勝利を得た事は種々の原因もありませう、將校兵士の勇敢なる爲であつたこともありませう、其の忠勇な精神が然らしめた事もありませう、併し其の中最も大なる原因はベルダンの背後に自動車が自由に走り得る五十間以上の大道路があつたと言ふ事でありませう、之が爲に戦帶と後方部隊との連絡を取る事が出来、砲車輜重等の輸送を迅速且つ圓滑ならしめた事が此の勝利を得た偉大の原因であつたと言ふことであります。

二 米國の鐵道王ヒル氏の來朝に促されて

此の事が我帝國に聞えた當時に完全なる道路を有する事は國防上極めて必要なる事であると言ふことを痛切に感ずるに至つたのでありまして、日本國防義會——帝國の國防を研究する團體が我邦の道路改良に關して研究の歩を進める事になりました、同時に又國の富源を拓き文化の向上、産業の發展を計る上に於て道路の完備改善を計ると言ふ事は極めて必要なる事である、私共は國防と同時に、國家の富源開發と言ふ見地からして、普遍的交通機關である處の道路の改良を期せねばならんと云ふ考へを持ちました。

今日我國道路の現状を以てしたならば、我國産業の發展は期し得られないと言ふ感を深からしめたのであります、而して大正七年十一月米國の鐵道王と稱せられて居る、ゼームス、ヒルの女婿、サミュエル、ヒルと言ふ人が日本に來ました、此人は道路改良家として著名な人でありますが、此人が日本に來て我國の道路の如何にも不完全なることを痛切に感ぜられたのであります。

サミュエル、ヒル氏は澁澤子近藤男其他の人々と交際を

講演

して居りましたが、是等の人々は日本國防義會の理事者でありますので國防義會が主催者となり、一タサミュエル、ヒル氏を招待し國防と道路と言ふ事に就いての講演を聞いたのであります、此時ヒル氏は道路が、國防上に於て、經濟上に於て産業上に於て將又國民生活上に於て如何に必要であるかと言ふ事を徹底的に述べられ、且又米國が如何にして道路の改良をしたかと言ふ事に就いて具體的な話をされ更に、映畫を以て米國の道路改良の方法と效果を示されましたが、尙是等の人々がヒル氏と晚餐を共にして、種々の雜談を試みました、當時會合した人々は澁澤子を始め實業方面の人々、或は陸軍に關係ある人、内務省鐵道省に關係ある人々でありました、私並に今日此處に列席して居らるゝ松木君の如きも會合者の一人でありました。ヒル氏の講演の終りました後に我々は別席に會合して道路改良の必要なることは必ずしもヒル氏の話しによりて始めて知つた譯ではないが、遠來の外國人而かも道路改良家として知られてゐる世界で有名なヒル氏が如何にも熱心を以て話されたので

あるから、是を動機として道路改良に關する會を作り、帝國の道路の改良に關する具體的方法を考究しようと言ふ事になりました、茲に道路改良會を創設する事になつたのであります。

三 本會設置の由來と其の後 に於ける活動

其の後、澁澤子爵と私とが、『司會者に指命され、同夜出席した數人の者が設立準備委員となつて、數回會合をして道路改良會の會則規約を定め、大正八年三月一日發起會を開きました、當時出席した人々は内務省、大藏省、鐵道省、陸軍省、逓信省、東京市の方々、實業家、技術方面の方々でありまして、全會一致を以て此道路改良會を組織する事に決しました。

斯くの如き次第で此の道路改良會が成立することになりましたが、不肖私は推されて會長となり、數名の理事が指名せられました、會が成立したる後に於きましては理事者は時々會合いたしましたして道路改良に關する具體的方策を調

査研究いたしましたして其の結果を或は政府に建言し、或は地方公共團體に意見を提出して官民一致して事に當ると言ふ事を企てました。

先づ第一に東京市の道路改良に關する調査に着手いたしました、私は本日函館市内の状況を見、また函館市の道路の極めて悪い事も承りましたが、帝都である東京市の道路も同一の状態であります、外國人の批評を聞きますに、東京市には殺人機關がある、其の機關は道路であると言ふ皮肉な批評をして居りますが、私は之を聞いて實は憤慨しました、是は事實其の通りである事を如何にしませうか、新聞に於て御承知の通り貴族院議員の或人が東京市の眞中に於て道路の修築中（永樂町水道工事）の中に落ちて死んだと言ふ事もありました、又東京市の電車が川の中に飛び込み、是が爲に幾多の死傷者を出したと言ふ事もありました。

東京市の眞中に殺人機關がある、それは東京市の道路であると、外國人の皮肉の批評に對して之を反駁することの

出来ないのは實に遺憾であります、故に東京市の道路の改善を第一に考へなければならぬと言ふ事に就いて、改良會では具體的調査を始めました、只無責任に道路改良が必要だと言つただけではいけない、如何なる方法に依つて、如何なる財源に依つて、改良す可きかと言ふ具體的方法を講じなければならぬと思ひまして之が研究をなしたのであります。

御承知の通り今日我邦の制度では道路の施設管理は、國若くは、府縣道廳、市町村と言ふ公共團體に屬しておりまして、改良會は直接に道路の仕事をするものではありません、故に會は調査研究の結果を國又は公共團體に建議するの外はありません、此の趣旨に基きまして東京市の道路改良に關しても、如何なる方法に依り、如何なる財源を以て之を改善すべきかと言ふ具體的方法を考究し、其の結果を東京市、内務大臣、大藏大臣、總理大臣に建言したのであります、此の意見の容れられた爲であります、兎に角東京市の道路は極少部分ではあるが稍いくらか良くなつた様に

思はれます、其の當時には殆んど鋪裝した道路は無かつたのでありますが、近時鋪裝した道路も漸次に出来るやうになり改良の緒に就きつゝある様に思はれます。

四 惡路に惱む日本國民——

また輪送上の影響

是は決して道路改良會の力のみであるとは自負はしませんが、少くとも私共の意見の幾分かは採用されたと言ふ事を信じて喜んでゐる次第であります。

今事新しく我國の道路の不完全なることを言ふ必要はなく、是は實際に諸君が痛感してゐらるゝ處であります、一度雨が降れば泥濘脛を没すると言ふ程では無くとも、少くも靴や下駄は没すると言ふ状態であり、又一度快晴になれば砂塵飛んで煙の様になると言ふ有様で、東京市民も大いに困つて居ります、恐らくは函館市民の御方も同じ状態に在ると信じます、此の如き状態でありましては國民生活上に於て大なる損失を受けて居ると思ひます、何等かの方法を以て是を改良せねばならぬと言ふ事は誰も感ずること

であります、然るに人によると、道路の改善は必要はない、日本の道路に舗装をする、道を擴げる、勾配を直す等と言ふ事は贅澤である、夫れ程必要は無い、雨が降つたらば高い下駄を履けば宜いではないかと言ふ人もあります、併し此の如きこと言ふ人は實際惡道路の爲に吾々が蒙りつゝある損失が、如何に巨大であるかを知らないのであります。

道路の惡き爲に我々が日常の生活に如何に損失をして居るかと言ふ事を數字に依て調べた事がありますが、夫れに依りますと、我々は實に非常な負擔を爲しつゝある事が判ります、東京市丈の例を取つて見ますが、東京市若くは東京市接續附近に至る貨物は一年に七百萬噸あります、是は少々古い統計でありますから今日は尙多いと思ひます、東北地方からは隅田川驛、上野驛中央線は飯田町驛或は新宿驛、東海道は汐留驛、海路からは品川とか芝浦とか種々の方面から東京に集る貨物の總噸数が七百萬噸あります、此貨物は米麥薪炭魚類其の他吾々の日常生活に必要な物資

であります、是等の物資は東京市内の道路を使用して、倉庫、商店又は個人の家庭に運搬される、即ち東京市の道路は七百萬噸の貨物を輸送する爲に使用されてゐるのであります、此貨物は自動車、荷馬車、荷車等に依て運搬されておりますが、是等の貨物が一日どの位の行程で以て運搬されておるかと言ふと、今日の道路の状態では、日に三里よりは餘計に行けないと言ふ事であります、輸送料を調べると一噸一里に就き六十錢かゝり此貨物の總輸送費が六百三十萬圓かゝる事になる、然るに若し此の道路が今よりよくなり運輸力が圓滑になれば、少なくて見積つても四里は運べる事になる、一日一里早く運べる事になれば輸送費が四十五錢になります、極く内輪に見ても六十錢が四十五錢に減ずるのであります、随つて其の輸送費が四百七十二萬五千圓になりますから、現在の輸送費より百五十七萬五千圓節約されます。

次に自動車、自轉車、馬車、人力車等の輸送機關の耐久力に就いて調べて見ますと、是等の耐久力が、道路の良否

によつて非常に違つて來ます、即ち是等の車馬の維持修繕費、又は自動車のカソリンの使用量が減つて來ます、是を道の良い處、例令ば外國等で舗裝の出來てゐる道路と比較して見ますと専門家の言ふ所に依ると耐久力が五割以上は延ばす事が出來ると云つて居ます、例令ば自動車、荷車が一年で壞れるのが一年半は持つ事になる、さうなると是等の維持修繕費も少くなる譯であります。

東京市に就いて調べた所に依りますと其の當時自動車は二千五百臺あるとしまして、今日では一萬臺以上になりましたが……自動車は二千五百臺、馬車、荷車が六千臺、其他自動車、人力車等がありますが其の一年の維持修繕費が三百三十九萬八千圓かゝります、然るに道路がよくなると極く少く見積つて之れが二百二十六萬五千圓に減する事になると言はれてゐます、夫れでありますから先程申しました輸送料の節約と此自動車、荷馬車其の他の機關の維持、修繕費の減少とを加へますと夫だけでも約三百七八十萬圓は減らす事が出來る事になります、假りに輸送費が減り輸

送機關の維持修繕費が減れば夫れだけ物資の價を減する事が出來る事になります、我々は實はこんな云に氣がつかないかつたのでありますが、我々東京市民は年に三百七八十萬圓は道路の悪い爲餘計に生活費を負擔をしてゐる譯であります、夫れだけ餘計負擔すれば物價がそれだけ高くなる事は當然であります。

是れは單に荷車とか自動車とかと言ふものに就いての輸送費のことではありますが、其他個人々々が日常受けてゐる損害を見積れば是以上になる事は明かであり、道路の悪い爲に毎日歩いてゐるお互の靴の減り方、下駄の減り方、着物の悪くなること、其他店先の諸物資が損傷を受けると言ふ事もありますし、又衛生上から言へば或は呼吸器病、傳染病に侵さるゝ危険もあります、夫れ是れを加へますれば其損失は三百七八十萬圓位ではなく、より以上の損害を受けてゐるのであります、併し是は餘り目立たず、又數字に顯はすことも出來ないから吾々は左程にも思つて居ませんが、實は、惡道路の爲に生活上に多大の損害を受け

て居るのであります、今日東京市民が二百萬人ありとすれば其の損失負擔は一人當り二圓位となる、是は租税でもありませんから吾々は氣がつかないが、此の如き負擔をなして居るのであります以上は市民は少しく自覺して道路の改善を叫ばなければならぬのであります。

以上は東京市の道路に就いて申上げたのであります、是は函館市に就ても同様であらうと思ひます、又是は市の状態に就て申し述べたのであります、農村に就ても同一の事があると思ひます、例令へば道路の悪いが爲に、荷馬車が馬一頭で引ける處が二頭三頭要る、平地ならば一頭でよいのに五十分の一の勾配ならば二頭の馬を要し、二十五分の一の勾配ならば三頭、七分の一の勾配ならば九頭を要すると言ふ事であり、馬一頭で濟む處が九頭も要ると言ふ事になれば、夫れだけ輸送費は高くなる譯であります。

岡山縣に於て話を聞いた事がありますが、岡山縣の或る縣道に於て道路を改良する前には荷車で米を出すのに五俵より積めなかつたのが、之を改良し勾配を緩くして道幅を

擴めました爲に七八俵も積める事になつた、今迄五俵ものが七八俵になつたのだから、又地方から出る物資がずつと早く輸送される様になり、隨つて輸送費も少くなつたと言ふ事であり、此實例を見て、縣會に於て或區間の道路の改修費を議する事になりました時に、其と費用に就いては全會一致を以て直に決議されたと言ふ事であり、のみならず、之を聞きたる車夫、馬挽までも拍手して喜んだと言ふ事であり、是は一例であります、道路問題は空理の問題でなく、國富開發と負擔減少の實際の問題であります。

先年内務省では道路改良の必要を認め全國に亘り道路改修の調査をし、改良の計畫を立て、國道若くは府縣道の重要なものに對して國庫より補助することとして、年額一千萬圓位の豫算を計上した事がありました、財源は公債を以て支辨すると言ふ案でありました、其の後財政緊縮の爲に豫算が段々削減せられ昨年の如きは頗んど全部削られると言ふことを聞きました、其の際道路改良會では、今日の場

合に緊縮も必要ではあるが、道路改善の費用を削ると言ふ事は、國家の發展を妨ぐる事になるから成る可く削減せられないやうにし度いと言ふ事を政府に建議しました、此爲に濫理理事山田理事が特に内閣總理大臣に面接して、互に意見を交換して、其の費用を成るべく削らず餘計にしてほしいと言ふ事を述べまして、三百五十萬圓迄維持された、道路改良會の主張した意見が幾分にも容れられたことは幸と考へます。

尙今後改良會に於ては調査部と言ふものを設けまして、道路改良に關する技術的方面、財政的方面の具體的方策に就いて研究調査をする事になりました、私共は今後一層力を致して道路問題に關して相當の事をしたい思つてゐます、諸君も何卒道路の改良は國家の富源を開發する上に必要であると言ふ見地に基きて十分に努力されん事を希望致します。

承れば當地には道路改善會なるものがあつて着々努力されておる由でありますが北海道の如き拓殖上の見地からし

て開發すべきことが多々ありますから十分御盡瘁あらんことを望みます、我々も相當の調査研究をなし、諸君と共に此の目的を遂行したいと思ひます。

本會々員の中には技術方面にも、財政方面にも、地方自治體の事に關しても知識經驗のある方もあり、又實業家も居られるから是等の人々の意見を集めて研究したならば、必ずや適當の成案の得られることと考へられます。

茲に本會を設立しました經過並に現狀を御紹介いたしまして諸君の御參考に供した次第であります。

